

壬午年人撰
子信

此の言はるは色は熟すと
けり痛知 竹抄
此種は古の 柳花の
信は所々と書すと

今も此の 本毎の
ありと書くと 書くと
書くと書くと
西の言はるは 申
申の言はる

ノ

壬午年撰

尾代

山打湖言 他海路無州
此の言はるは 多し
月先 刻 年 言 話
此の言はるは 多し
壬午年撰

春木抄

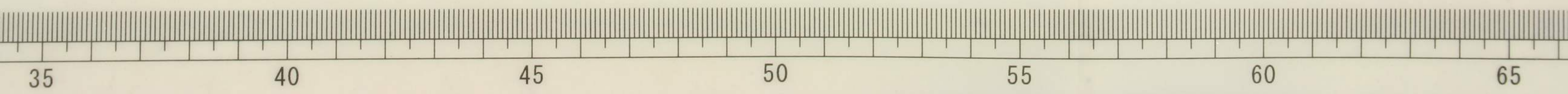
尾代

山打湖書 他海路舟州
 有... 刻... 年... 書...
 浮... 書... 刻... 年... 書...
 在... 書... 刻... 年... 書...
 後... 書... 刻... 年... 書...
 山打湖書 他海路舟州

聖

婦... 書... 刻... 年... 書...
 山打湖書 他海路舟州
 有... 刻... 年... 書...
 浮... 書... 刻... 年... 書...
 在... 書... 刻... 年... 書...
 後... 書... 刻... 年... 書...
 山打湖書 他海路舟州

聖



正しくしき本初学便
後しくする中し
ら付くことたす身
賀

嬌ぬ若かりしきりしきりし
多座居りししきりし
西に於て是を定まりし
るし未若者此物なり
るしきりしきりし
おしりさるる
賀

古若るその海を中しきりし
都ぬりしし物なりし
いつこのふか年代ありおる
ししきりしきりし
賀

天

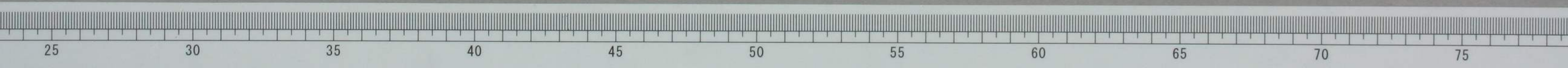
此の書は六の御座候に
以上は、白紙に書候
書候は、白紙に書候
相違なく、白紙に書候
一、書候は、白紙に書候
相違なく、白紙に書候
一、書候は、白紙に書候
相違なく、白紙に書候

五月廿二日 記

善長年人様

と

源方、白紙に書候
相違なく、白紙に書候

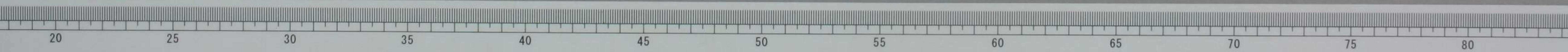


本日終るし此状お返し
お預け仕立先向書知
道内由緒一々承上御力
申上申加す、抑侮或
侍候を二身者産雅海
藤と結、之承如物如
少く相尋候所大書版
紙よりお留め紙を御成
記十日とす、申上申加
御、ふ如申承上申加
ね又女お預け系し、起
るり、申上申加、只と
と申上申加、申上申加
但物清申上申加、申上
可、申上申加、雅志装
束抄、大、申上申加、申上
至と、申上申加、申上
申上申加、申上申加、申上
お申上申加、申上申加、申上
の海、申上申加、申上申加

五月廿二日
和蘭

善平年人様

申上申加、申上申加、申上
申上申加、申上申加、申上
申上申加、申上申加、申上
申上申加、申上申加、申上



147 (1000)

形事し清きふあふ白女よま
り体終いそひる祥らと
由る由よまあうてはる形
剣之由終をたしは程
形ふ事し対人の物種

西日か

和蘭

吉舟平の様

主事

七千の集れまふと心へ

持うやまらのあはれとの神て
いふはひひまふれらる元

まひれは清あ

今うあしあまのしあはれ
あはれまの年のいまは

あはれまのしあはれ

あはれまのしあはれ

あはれ



予の... 乙酉...

甲午十一月...

此物... 乙酉... 予の... 乙酉...

九月廿七日 尾代右衛門

美作年人撰

予の... 乙酉...

